

津波・大規模風水害対策車について

東日本大震災の津波災害や各地で発生している大規模風水害において、冠水地域における効果的な人命救助活動をどうするかが課題となりました。

総務省消防庁は、東日本大震災において救助活動をした隊員の意見を踏まえ、水陸両用車等の救助資機材を積載し、津波や大規模風水害による冠水地域の人命救助活動に特化した特殊車両を整備しました。

海部南部消防組合管内は、南海トラフ巨大地震などによる津波や大規模風水害の発生が危惧される地域であることなどを踏まえ、当組合に配備されることとなりました。

津波・大規模風水害対策車両及び資機材について



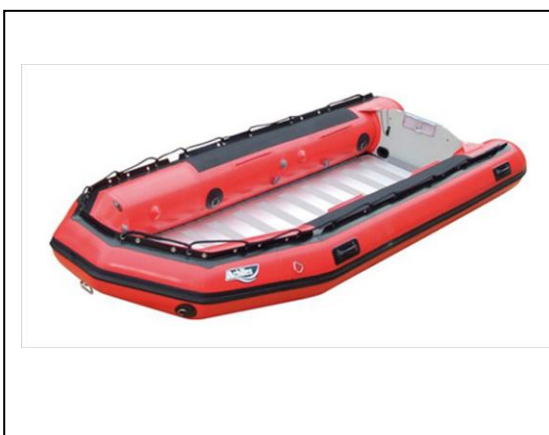
津波・大規模風水害対策車

この車両は、全長約9メートル、幅約2.5メートル、高さ約3.5メートル、重さ約10トンで5人乗りです。水陸両用車やボートに加え、隊員が現場で着用するドライスーツ等の機材などを搭載しています。



水陸両用車

搭載される水陸両用車は8輪で、全長約3メートル、幅約1.5メートル、全高約2メートル(ガードパイプ含む。)、重さ640キロです。陸上では6人乗りで、水上では4人乗りとなります。



ゴム製ボート

全長約3.8メートル、幅約1.61メートル、重さ約78キロで6人乗りです。

アルミロールアップフロアを採用することにより、スピーディーな組み立てができ、可搬性と収納性に優れています。